

草加西部地区

こなまちになったらいいな

第3回

## 地区別懇談会 の記録

### プログラム

1. 開催にあたって
2. 意見交換  
ワークショップ①：お気に入りのプロジェクトを見つけよう  
ワークショップ②：プロジェクトの内容を深めよう
3. 検討結果の発表
4. 閉会・次回のご案内

日時：令和4年10月14日（金）  
18:30～21:00  
場所：氷川コミュニティセンター集会室  
参加者数：21名

### 当日の様子



## ワーク①：お気に入りのプロジェクトを見つけよう の記録

ワーク①では、第2回地区別懇談会で生まれたプロジェクトの種となるアイデアから各参加者がお気に入りのプロジェクトを2つ選び、その結果を基に、後半のワーク②で内容を深めていくプロジェクトを各班で3つずつ選びました。（※今回選ばれなかったプロジェクトについても、最終的なコミュニティプランに反映します。）

テーマ1 「つながり・支え合い」		
	プロジェクト名（仮）	選んだ理由
★ B班	1-1 ボランティアの仕組みづくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>★ (A班) ・ボランティアの活動を通じて、地域の中で出会いやつながりの場所を増やせるのではないかと。自分自身が趣味の会や自治会活動に参加していてその様に感じる。</li> <li>★ (B班) ・高齢者の見守り体制とつなげたい。</li> <li>★ (B班) ・まちのためのボランティア活動を統合・拡大し、課題解決の原動力となると考えられる。</li> <li>★ (B班) ・ボランティア活動を通し、多世代交流ができる。ボランティア活動を誇れるような仕組みづくりが必要である。</li> </ul>
★ B班	1-2 リタイア世代による 子どもスポーツ教育の支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>★ (B班) ・スポーツだけでなくてもよいが、「生きがい」が大切である。高齢者などターゲットを絞るとイメージがしやすい。</li> </ul>
★ A班	1-3 様々な社会課題の解決に 向けた議論の場づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>★ (A班) ・地域の中に、住民主体で行政がサポートしてくれるような、「井戸端会議」的な場所があることで、交流の場所としての機能が集約されていくのでは。</li> <li>★ (A班) ・多世代、多職種が集える場所で、かつ子どもの学びや教育にもつながるような場所が大切だと思う。また、あくまで「（悩みや課題を）話し合える・出せる」ことが一番重要で、解決はその次（目的ではない）だと思う。</li> </ul>

テーマ2 「にぎわい・交流」		
	プロジェクト名（仮）	選んだ理由
★ D班	2-1 公共空間を活用した 定期的な市場の開催	<ul style="list-style-type: none"> <li>★ (D班) ・住まいが不便な場所にあり日頃の買い物に苦労している人のため。</li> <li>★ (D班) ・高齢者にとって、普段生活している場の近くに市場が来てくれると喜ばれる。普段あまり外出しない高齢者も、近くなら外に出てくれる人が増えるかもしれない。</li> <li>★ (D班) ・市場は、人が集まるきっかけ、行くきっかけになりやすい。多世代交流、にぎわいが生まれる。地元の野菜を使えば、地産地消にもつながる。</li> </ul>
	2-2 ペットをきっかけにした 地域交流「おてがるドッグラン」	<ul style="list-style-type: none"> <li>★ (D班) ・犬を飼っている人、飼っていない人が、それぞれ良いところ悪いところを理解して分かり合えるような交流の場にする。</li> <li>・内容はドッグラン限定ではなく、皆が集まってお互いを分かり合い、その場所を利用して遊べるような取組みができるとよい。</li> </ul>
★ C班	2-3 SNSを活用した 『草加西部地区』の魅力PR	<ul style="list-style-type: none"> <li>★ (C班) ・紙の回覧板もいいが、今後はITを活用し、若い世代を巻き込んで若い世代の力を借りることが大事。</li> <li>・地域の中にはIT企業で働いている人もいるだろう。むしろ、若い人に教えてもらう形で世代交流ができる。</li> <li>★ (C班) ・お店のお客さんに聞かれて、そもそも草加の歴史を知らないことに気付かされた。なぜ草加は煎餅のまちになったのか、外国人に質問されても答えられない。草加の歴史を知って、草加とはこういうところなんだ、と学べるような勉強会ができるとよい。</li> <li>★ (C班) ・PR活動であれば大学生も連携してできるため実現性が高い。地域活性化等をテーマにしたゼミがあるため、上手く協働できるとよい。</li> </ul>
	2-4 ITを活用した 公園や空き地の情報発信	コミュニティプランのなかで、今後検討していく予定です。
	2-5 多世代による スポーツや遊びを通じた交流会	<ul style="list-style-type: none"> <li>★ (D班) ・中学生の子どもがいるので、一緒に楽しみたい。どうやって人を巻き込めるかが課題。すぐに盛り上がることはないので地道にやりつつ、どう増やしていくか。</li> <li>★ (D班) ・スポーツは世代間のギャップが少ない交流だと思う。運動会であれば体を動かさない人でも応援等で楽しめる。自身の地元では学校の運動会とは別に町内対抗の運動会を開催しており、お年寄りもいきいきして盛り上がっていたのが印象に残っている。地区対抗の運動会あったら楽しそう。（草加市も運動会の中で地区対抗リレーなどあった）</li> </ul>
★ C班	2-6 文化交流と産業振興のための 英会話イベント	<ul style="list-style-type: none"> <li>★ (C班) ・草加市でこれまでやってないイベントであり、外国人も交えた文化交流ができると良い。小学校にも外国の方が多いため繋がりづくりが必要。また、獨協大学の学生と上手くコラボレーションできる可能性がある。</li> <li>★ (C班) ・大学までしか英語を学ぶ機会がない。獨協大学の外国語サークル等と一緒に活動できるという点で、コスト面でも実現性が高い。</li> <li>・外国の方との日頃からのコミュニケーションが災害時にも生きる。</li> <li>★ (C班) ・外国人の人口が増加傾向にあり、今後更に増えていく可能性がある。地域でも、町会の周知やゴミの捨て方等で、外国人の方とコミュニケーションを取りたいがどのように接したら良いかわからない、という声を聞く。気軽にコミュニケーションが取れる関係づくりが必要で、色んなことをお互いに教え合えると良い。（実際に大泉町で実践しており、マナーが改善した事例あり。獨協生の地元）</li> </ul>

テーマ2 「にぎわい・交流」		
	プロジェクト名 (仮)	選んだ理由
★ D班	2-7 各町会の交流に向けた 大盆踊り大会	<ul style="list-style-type: none"> <li>★ (D班) ・子どもの思い出づくりのため。子どもが、自分の住んでいる町を自慢出来るような町にするために。こんなイベントがあるんだよ、と言えるように。</li> <li>★ (D班) ・町会だけでは狭く、市全体では広すぎる。顔の見える範囲での身近な集まりでお祭りをしたい。</li> <li>★ (D班) ・高齢化などで個々の町会での催しは難しくても、協力することで実現できる。町会で協力し合って実現できれば、草加市が対外的にもPRできるイベントになる。</li> <li>★ (D班) ・踊りやお祭りは地域との繋がりを生み出しやすい。また、産業振興という視点で、草加市は浴衣が有名なのにいまいち知名度が低いので、みんなで浴衣着てお祭りを開催し、盛り上げられると良い。群馬県の上毛かるたがともうらやましく、草加市でも「草加おんど」など年齢関係なく全市的に共有できる何かがあると良い。</li> </ul>
	2-8 新たなビジネス創出のための 多分野連携マルシェ	コミュニティプランのなかで、今後検討していく予定です。

テーマ3 「居場所」		
	プロジェクト名 (仮)	選んだ理由
★ D班	3-1 多世代交流・ 支えあいの居場所づくり	★ (D班) ・公共施設をハブにすると人が集まりやすく、そこで多世代交流ができる。人が集まってつながれば、そこを出発点として、いろんな取組みにつながる可能性が広がっていく。
		★ (D班) ・子ども(の幸せ)を中心に、世代・国籍・文化を越えて一体となれる取組みをしたい。単発で終わらずに、例えばマルシェなど地域の農家さんを巻き込んで、取組みと取組みをつなげていくことが大事。
		★ (D班) ・集まれる場所から、コミュニティが生まれる。まずは集まる場所を見つけること。集まる場所が見つければ、自ずと発展していくだろう。
		★ (D班) ・地域交流が取組みの大前提。行き場がない方に家を出てもらうために、手ぶらで参加できるとよい。通りすがりの人も呼び込めるかもしれない。
		★ (D班) ・人が集まるハブが大事。単発で終わらないよう、まずは場所づくりから。
		★ (D班) ・コミュニティセンターで高齢者を対象とした昼食会を実施している。食事目的ではなく、その場が楽しみで来ている方がいる。そういった目的問わずいつでも自由に集まれる、開かれた場があると良い。氷川町を始め、若い方にも人気がある地区であるため、多世代の交流ができると良い。
		★ (D班) ・独居の高齢者の安否確認を実施している。氷川コミュニティセンターでパリポリ君体操と輪投げを実施しており、そこに小さい子どもも参加してもらえると良い。
★ C班	3-2 子育て世代を支える 「コミュニティカフェ」の開設	★ (D班) ・自身が近所の方との交流によって助けられた経験がある。草加でも子育て中に「あきちゃんち」を紹介してもらい、とても助けられた。そういった場は大事。
		★ (D班) ・SNSなどネット上にもはけ口はあるが、やはり現実世界でもそういった場所は必要であり、その拠点が多ければ多いほど人の助けになる。
★ C班	3-3 地場産業を生かした 「地域カフェ」の開設	★ (C班) ・3-1も良いが、社会的に高齢者のサポートに重きが置かれがちだが、子育てのサポートをより促進する必要がある。子育て世代と子どもを支えることは地域の活性化という視点で重要と考える。
		★ (C班) ・ネットを始め、情報があふれているため、育児の先輩からのアドバイスを直接受けられる場があると良い。
		★ (C班) ・全世代を受け入れる食堂が今後必要になる。子ども食堂は子どもが対象になるが、障がいがある方や収入が少ない方など、その他にも支援が必要な方がいる。
		★ (D班) ・取組みを事業として持続させるためには、地元にお金が落ちるマネタイズの仕組みが必要。

テーマ4 「みどり・景観」		
	プロジェクト名 (仮)	選んだ理由
	4-1 みどりあふれる 安全な歩行者空間づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>★ (E班) ・4-3の取組みにも通じるが、土地の所有者など地域が一体となってみどりを増やし、景観を良くしていくということに魅力を感じたから。</li> <li>★ (E班) ・景観を楽しみながら、住民同士のコミュニケーションに繋がりたい。</li> </ul>
	4-2 景観UPにむけた地域を巡る ウォーキング運動	★ (E班) ・既に地域にある資源を活用するという点で、取り組みやすいと感じたから。今あるみどり、景観の価値を向上させたい。
★ E班	4-3 各所の緑化運動を展開した ウォーキングルートづくり	★ (E班) ・単なるアスファルトではなく歩いて楽しい歩行空間にすることで、散歩に興味を持てるようになると良い。地区の各所で緑化に関する取組みが行われていると知って、そういったみどりのエリアや地区の魅力である箇所、歴史ある小道などを繋げてルートにすると面白いと感じたから。
		★ (E班) ・地域の人々が主体にならないと実現できない取組みであり、面白いと感じたから。
		★ (E班) ・地域で既に活動が始まっているためすぐに実行することができ、地域にある殺風景な景観の改善にもつながる。また、多世代交流の機会にもなる。

テーマ5 「農業」		
	プロジェクト名 (仮)	選んだ理由
	5-1 育てた野菜で地域交流 「自給自足バーベキュー交流会」	コミュニティプランのなかで、今後検討していく予定です。
★ E班	5-2 農がある風景を生み出すための 農業機会の創出	<ul style="list-style-type: none"> <li>★ (E班) ・農地を活用することで、草加西部地区の魅力である自然を景観として残していけるようにしたい。</li> <li>★ (E班) ・まずはお試しで体験農園に参加し、関心を持ったら自由栽培コーナーにステップアップしてもらうことを考えている。従来の家族経営による農家ではなく、地域に開かれた農園として運営することで、地域の方に農業を通じて楽しさ・豊かさ・快適さを感じて欲しい。それによって良い地域コミュニティも醸成される。</li> <li>★ (E班) ・自身は草加市出身だが、小学生の時にいった農業体験が楽しかった思い出であるため。</li> <li>★ (E班) ・当地区は川と緑地の風景が素敵だが、近所の緑地が減っていると感じる。ただ、暑さの中での草取りといった苦労もあると思うので、地域の方によるボランティアなどで手助けできると良いと思ったから。</li> <li>★ (E班) ・子ども達を媒介にして、子育て世代の交流のきっかけにもなり、そこに集うことで多世代交流も行われるのではないかと思ったから。また、子どもの教育にもつながる。</li> </ul>

テーマ6 「歴史・文化」		
	プロジェクト名 (仮)	選んだ理由
★ E班	6-1 地域のPRに向けた ご当地キャラづくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>★ (E班) ・より草加西部地区を身近に感じることができ、草加西部地区の魅力アップにもつながると思ったから。</li> <li>★ (E班) ・草加西部地区オリジナルのキャラクターを通じて、草加西部地区の人たちのイメージである親しみやすく、(地味でも) しっかり働いている姿を表現したい。</li> </ul>
	6-2 地元の職人による 地域のものづくり教室	コミュニティプランのなかで、今後検討していく予定です。
	6-3 みんなで浴衣を着て 「草加音頭」を踊ろう!	★ (E班) ・地域の方が主体となることができる取り組みだと感じたから。

テーマ7 「防災・防犯」		
	プロジェクト名 (仮)	選んだ理由
	7-1 すばやい避難に向けた 避難所等の目印の設置	コミュニティプランのなかで、今後検討していく予定です。
★ A班 ※	7-2 多世代交流のための 防災キャンプの開催	<ul style="list-style-type: none"> <li>★ (A班) ・避難所運営委員会の委員をしていて、日頃から避難所運営の訓練を地域の人と取り組む必要があると感じている。</li> <li>★ (A班) ・防災という誰にとっても共通となるテーマを通じて多世代が交流できる点がポイントだと思う。</li> </ul>
★ B班	7-3 安全なまちを目指した 地域の見守り運動	★ (B班) ・防犯は草加西部地区で早急に解決すべき課題である。自分たちで守るという意識と仕組みになる。高年者が登下校や夜に旗振りできるといきがいになるのでは。
★ B班 ※	7-4 公園や空地を活用した 『子ども』×『防災』イベント	<ul style="list-style-type: none"> <li>★ (B班) ・何よりも「命」にかかわることだから。</li> <li>★ (B班) ・楽しく防災を学べる防災運動会や防災ナゾ解きゲームなどができると良い。</li> <li>★ (B班) ・防災というテーマを通して、多世代交流をしたい。</li> <li>★ (B班) ・青年会議所で“学校でおしえない”子ども防災教室(自販機が倒れたときの行動)を開催した。</li> </ul>

※ワーク②では、7-4の検討のなかで、7-2の内容を合わせながら、A班で検討しました。

## ワーク②：プロジェクトの内容を深めよう の記録

ワーク②では、ワーク①で選ばれた各班3つのプロジェクトについて、目的や活動内容、関連する人や場所などを深めました。

**【テーマ：つながり・支えあい】で選んだプロジェクト ①**

**B班で検討！**

### 1-1：ボランティアの仕組みづくり

#### プロジェクトの目的と主なターゲット

- ・地域住民…ボランティアに参加するメリットを作り、ボランティアへの参加者人口を増やす。

#### 中心となる担い手

- ・既に活動している団体

#### プロジェクトを支える人たち

- ・獨協大学
- ・子どもたち(子どもたちでもできることを考える)

#### プロジェクトの内容

##### ●活動内容①【プラットフォーム（ボランティアタウンワーク）づくり】

- ・何人程度、どこで、いつ必要かがわかるような仕組みを作る。
- ・どのようにプラットフォームを整理するかを検討する。デジタル・アナログでそれぞれ課題はあるが、ポイント制度を導入することも考えると、ハードルは高いがデジタル等で運用することを検討する。

##### ●活動内容②【ボランティア活動の可視化】

- ・団体へのヒアリング、課題整理は地域でも対応する。

##### ●活動内容③【ポイント制度の導入・仕組み検討】

- ・ポイント制として、ボランティアをした方のメリットとなるようにする。
- ・ポイントをどこで使うかを考える(→地域通貨のような形で運用できるか)。
- ・ボランティアをすると「ボランティアをしてもらえる・呼べるポイント(サービスと交換)」。
- ・有給でボランティア休暇が積極的にできるように、企業に促す。

#### 今後の主な検討課題

- ・活動内容③…ポイントの評価と管理  
ドタキャンなどトラブル対応方法（イネによる評価形式、ポイントの没収など）

## 1-2：リタイア世代による子どもスポーツ教育の支援

### プロジェクトの目的と主なターゲット

- ・地域の子ども…指導者が不足していて、部活動ができていない子どもたちのために、地域でスポーツ教育ができる環境をつくる。
- ・高年者など …スポーツ教育等を通した生きがいづくりを促進する。

### 中心となる担い手

- ・スポーツ指導で地域に貢献したい方  
(高年者だけでなくてもよい)

### プロジェクトを支える人たち

- ・第4回目にて検討予定

### プロジェクトの内容

#### ●活動内容①【ニーズや課題の把握】

- ・子どもたちのニーズを把握する。運動部・文化部問わず、実情を把握する。

#### ●活動内容②【協力者とのマッチング】

- ・「ボランティアの仕組みづくり」と連動し、ニーズの把握と協力者をマッチングする。

### 今後の主な検討課題

- ・活動内容①…どの立場・視点で目的設定をするか（子どものためか、先生のためか）  
…具体的な課題と把握方法

## 1-3：様々な社会課題の解決に向けた議論の場づくり

### プロジェクトの目的と主なターゲット

- ・地域の人ならだれでも…地域に普段関わりがない・関わりが持ちにくい人にもきてほしい。

### 中心となる担い手

- ・地域住民
- ・地域の高年者
- ・子ども（小中学生）

### プロジェクトを支える人たち

- ・地元の企業、大学などの「産官学」連携
- ・社会福祉協議会

### プロジェクトの内容

#### ●活動内容①【活動場所の検討】

- ・空き家活用の事例を調べる（「あきちゃんち」（西町）や「さかえーる」（栄町）など）。
- ・カフェの様に気軽に行ける場所を目指し、候補となりそうな場所や物件を探す。  
（場合によりオンライン開催も検討する）

#### ●活動内容②【協力者の募集】

- ・居場所作りに協力してくれる人を探す。一人ひとりが無理なくできる事・得意な事で協力してもらおう（話を聞ける、勉強を教えられるなど）。獨協大学の学生さんなどを巻き込めないか検討する。

#### ●活動内容③【採算性の検討】

- ・どうやって採算を取って運営するかを検討する。（例）常設ではなく週末の2～3時間限定で開催
- ・活動協力者の活動の有償化も併せて検討する。（例）1回のお手伝いで500円程度の報酬を支払う

#### ●活動内容④【情報発信】

- ・場所や取組について、SNSを活用して伝える。フォロワー数を増やす。

#### ●活動内容⑤【実際の試行】

- ・実際にお試しで実施してみる。
- ・これまでにリビングラボの様な活動をしたことがある人の経験を参考にする。

### 今後の主な検討課題

- ・活動内容①…活動場所の検討（地域の中に使えそうな場所があるか、既存の場所で使えるか等）
- ・活動内容③…採算性の検討（どうすれば採算性を確保して活動の有償化もできるか）

## 2-1：公共空間を活用した定期的な市場の開催

### プロジェクトの目的と主なターゲット

- ・移動が不便で、買い物に苦労している高齢者
- …コロナ禍でコミュニティが分断され、外出しない高齢者が増えている。身近な場所にマルシェを開き、外に出て人が集まるきっかけをつくり、地域の交流を再構築する。
- …農家や子ども食堂等と連携して取り組み、多世代交流や地産地消にもつなげる。

### 中心となる担い手

- ・地区別懇談会の有志
- ・農家、野菜販売事業者

### プロジェクトを支える人たち

- ・農家、野菜販売事業者
- ・行政・町会（場所の提供）

### プロジェクトの内容

- ・バイパス以西など、市の中心部までの移動が不便なエリアで、グラウンドや公園、公共施設を利用して定期的なマルシェを開催する。
- 活動内容①【活動場所】
  - ・まずはバイパス西側のエリアをターゲットにして、柳島グラウンドを借りて開催する。その他にもグラウンドゴルフ場など町会内の身近な場所を活用するなど、開催場所を広げていく。
  - ・コミセンも活動場所の候補地ではあるが、営利目的の利用ができるかどうかは検討課題である。他にも移動販売、路上販売、駐車場の活用なども検討していく。
- 活動内容②【協力者】
  - ・例えば地元の野菜を直売している「チャヴィペルト」など、農家と協力して地元の野菜でマルシェを開催する。
- 活動内容③【ニーズの把握】
  - ・農家の協力者を得るためにも一定の収益が必要であり、実際に身近な買物に困っている方はいるかどうか、マルシェの需要があるかどうかといった事前のニーズ把握も必要である。
- 活動内容④【運営方法の検討】
  - ・最初は行政に協力してもらうが、利益が出てくれば自主運営ができていけるといい。

### 今後の主な検討課題

- ・活動内容①…活動場所の確保や各種手続き（利用許可など）
- ・活動内容②…協力者の確保（農家、地元の野菜を販売している事業者）
- ・活動内容③・④…ニーズの把握、一定数の集客、採算性の確保

## 2-3：SNSを活用した『草加西部地区』の魅力PR

### プロジェクトの目的と主なターゲット

- ・地区内外の方…まちの埋もれた魅力をPRし、地区を知ってもらうことで居住者や来街者が増えてまちが元気になる。にぎわいが生まれる。

### 中心となる担い手

- ・地区別懇談会メンバー

### プロジェクトを支える人たち

- ・大学生（仮）

### プロジェクトの内容

#### ●活動内容①【地区の魅力を探る】

- ・まずは自分たちで地区の魅力を探し、整理するところから。みんなで話しながら意見出し、イベント的にまち歩き実施、古地図等の文献調査など。

#### <当日挙げた地区の魅力>

- ・駅が近く便利で暮らしやすい／先人が耕地整理をしてくれたおかげで、街並みが整っている。
- ・作農体験など、農業関係で先進的な取り組みをしている方がいる。
- ・市の東部を中心に浴衣が有名。

#### ●活動内容②【地区の魅力をPRする】

- ・テーマと対象を決めてPRする。例えば地区の歴史発信をテーマとして、古地図と現状のまちを比較し、地区の変遷を紹介する記事があると面白い。また、大学生向けにはカフェや浴衣を来て写真映えするスポットを紹介するなど。

#### ●活動内容③【既存広告媒体の活用】

- ・「広報そうか」には毎月町会の紹介記事が載る。その欄に地区の情報を載せられると良い。

### 今後の主な検討課題

- ・活動内容①…情報の収集方法（地区の魅力をどんな方法で収集すると持続する仕組みになるか）
- ・活動内容②…PR方法（SNSなど、どの媒体を使ってPRしていくか）

## 2-6：文化交流と産業振興のための英会話イベント

### プロジェクトの目的と主なターゲット

- ・外国人の方…外国人労働者や居住者が増えている現状に対して、地域住民とのコミュニケーションの機会や生活上の困りごとへのフォローが求められる。また、日頃からの交流が、災害時の支援やコミュニケーションにも役立つ。

### 中心となる担い手

- ・地区別懇談会メンバー

### プロジェクトを支える人たち

- ・第4回目にて検討予定

### プロジェクトの内容

#### ●活動内容①【交流を目的とした催しの企画】

- ・遊びや食など共通の話題を通してお互いの文化を知るイベントができると良い。食文化を伝え合うことやカラオケなど（あぎちゃんちはカラオケできる）。カラオケは特に盛り上がる。
- ・パリポリくん体操の動画に多言語の字幕つける。日本人が覚えて教えることもコミュニケーションになる。

#### ●活動内容②【ヒアリングで困りごとへのフォロー】

- ・どのような困りごとがあるかを把握する必要がある。例えば、リビングインジャパンの方にどのようなことが問題になっているかヒアリング調査するなど。地域でどんな課題があるのかなど。

#### ●活動内容③【参加者集め】

- ・まずはコアとなる人に仲間に入ってもらい、そこから輪を広げていく。消極的な外国人まで行き渡らせる方法を考えるのは次のステップ。
- ・外国人には外国人のコミュニティがあるかもしれない。まずは接点を作るためのコミュニケーションを取ってみることも一案。

#### ●活動内容④【必要な情報の提供・マッチング】

- ・市では多言語対応の母子手帳、防災マニュアル、町会加入案内など作成済み。支援はあるが必要な方へ届いていない可能性があるため、接点をつくり、情報提供とマッチングをする。

### 今後の主な検討課題

- ・活動内容①…実施場所（実施場所として考えられる施設）
- ・活動内容①…周知の方法（どのように周知すると良いか）

## 2-7：各町会の交流に向けた大盆踊り大会

## プロジェクトの目的と主なターゲット

- ・子ども…子ども達が自分の住んでいる町を自慢でき誇れるように、顔の見える範囲での身近な集まりでお祭りやイベントを実施したい。
- ・町会…高齢化など課題を抱える町会どうしが協力しあうことで、地域交流を促進し、住みよいまちづくりにつなげたい。各町会の子どものから高年者まで幅広い交流を実現できる。

## 中心となる担い手

- ・地区別懇談会の有志
- ・各町会の盆踊り大会の企画・実行メンバー

## プロジェクトを支える人たち

- ・関係町会
- ・小学校（会場） ・草加神社

## プロジェクトの内容

- ・各町会合同の大盆踊り大会を開催し、交流を図る。草加神社の協力を仰ぎ、お神輿が数日かけて西部ブロック全体を練り歩く、子ども神輿を担ぐなど、子どもが楽しめて記憶に残る行事とする。
- 活動内容①【活動メンバー】
  - ・これまでは各町会がそれぞれの場所で盆踊りをやってきた。各町会にお祭りのノウハウを持つ人も揃っているため、草加西部地区独自の大盆踊り大会への協力を町会を通して呼びかける。
- 活動内容②【イベント内容の企画】
  - ・各町会からノウハウを持つ人を集め、盆踊り、櫓、屋台の出店など、各町会のお祭りの特色を合わせたイベントを企画する。1日限定の子ども食堂やマルシェの開催等もあわせて集客をねらう。
- 活動内容③【開催場所】
  - ・広い場所に一同が集まって大盆踊り大会ができるとうい。人が集まるにはトイレも必要になる。
  - ・例えば西部地区の中心となる広い場所として西町小学校が候補地と考えられる。
- 活動内容④【草加神社のお神輿の活用】
  - ・地元の草加神社のお神輿をもっと活用したい。盆踊りの場を中心に、草加神社のお神輿が2、3日かけて街全体を回れるとうい。子ども神輿や山車をつくれれば、子どもが楽しめる。
- 活動内容⑤【キーマンの発掘】
  - ・次のステップとして、多くの人が集まる大盆踊り大会を通して様々なノウハウを持つ協力者とのつながりをつくり、他のプロジェクトへ展開する。

## 今後の主な検討課題

- ・活動内容③…開催場所の確保（例えば西町小学校）
- ・活動内容④…協力者の確保（草加神社）

## 3-1：多世代交流・支えあいの居場所づくり

### プロジェクトの目的と主なターゲット

- ・子ども、子育てに悩む世代、高年者、多国籍の方など
- …孤立する子ども、子育てに悩む世代、高年者、多国籍の方などが、多世代でつながり、支えあえる居場所をつくる。子どもの幸せを中心に地域交流が広がるような、世代・国籍・文化を越えた居場所をつくりたい。

### 中心となる担い手

- ・地区別懇談会の有志
- ・若者、大学生
- ・市（コーディネーター）

### プロジェクトを支える人たち

- ・農家、野菜販売事業者、子ども食堂の運営事業者等
- ・ボランティア、行政、小学校、社協など

### プロジェクトの内容

- ・ミニコミセンや空き教室等のまちの資源を使って、子どもや高年者など、誰でも集まれる場をつくる。吸引力のある場「ハブ」となるためのマルシェや子ども食堂のような企画から試運転する。
- 活動内容①【交流の場の企画】
  - ・居場所に必要なのは人を集める吸引力であり、無理に集めるのではなく、集まった人から広がっていくことが大事である。「第二日曜日はそこで何かやっている」ような場として定着させたい。
  - ・例えば「マルシェ」を一度始めれば、当番制にしたり場所を変えたりと、交流が広がり持続していく。また、「子ども食堂」を開催すれば、子どもと親の世代も来てくれる。高年者のボランティアで運営すれば、それだけで多世代交流が実現する。
- 活動内容②【活動場所】
  - ・みんなが気軽に集まれる場所、子どもが歩いて来れる場所がよい。氷川コミセンは地区東側からやや遠く、町会会館は気軽に借りることができる。他にもコミセン、ミニコミセン、文化センター、公民館、小学校の空き教室などが候補である。空き家は数が少なく管理も難しい。
- 活動内容③【協力者】
  - ・若い人、大学生を巻き込みたい。また、食物を扱うには食品衛生責任者などの資格が必要になる。
- 活動内容④【運営方法の検討】
  - ・クラウドファンディングでの資金調達も可能である。マルシェは街バル方式を真似てもよい。

### 今後の主な検討課題

- ・活動内容①…吸引力があり、かつハードルの低い企画づくり
- ・活動内容③…企画内容に応じた協力者の確保

## 3-2：子育て世代を支える「コミュニティカフェ」の開設

## プロジェクトの目的と主なターゲット

- 必要とする人…子育て世帯を中心に、障がいがある方、経済的に苦しい方、一人で寂しい思いをしながらご飯を食べている方の居場所づくりが必要。生活の基本であり誰にでも共通の話題である「食」をテーマにした場づくりができると良い。

## 中心となる担い手

- 地区別懇談会メンバー

## プロジェクトを支える人たち

- 大学生（仮）

## プロジェクトの内容

## ●活動内容①【ニーズ把握】

- 単に交流の場があっても来る人が偏るため、まずは関わらない層・取り込みたい層のニーズを把握する。例えば大学生にどんなものがあったら来たいかをヒアリングする。お互いに主催者として進めていけると主体性が生まれて良いのでは。対象ごとにヒアリングして決めていくなど。

## ●活動内容②【協力者集め・役割分担】

- 大学生は興味あることであれば参加したいという人がたくさんいる。ただし、時間が無く準備に参加できない人が多いため、指示をもらって動くことはできる。
- 学生の企画力や提案力、若い人の意見は重要であるため聞かせて欲しい。情報発信も学生に担ってもらえると円滑に進む。
- 適材適所で分担できると良い。例えば、大学生がチラシを作り、大人が配布するなど。世代によって参加できる時間帯や日程が異なるため、協力者間で調整して役割分担できると良い。
- 仲間内+αでスタート。

## ●活動内容③【場所探し】

- いつでも使えるフリーな場所が必要。（新潟県見附市では空き店舗を拠点化していた）
- 獨協大学ではコミュニティセンター、文化会館、公園、会議室を使っている。
- 民間事業者のお店のスペース使わせてもらえないか。

## ●活動内容④【まずは小さな取組みからスタート】

- いきなり大きなことをしようとすると準備にも時間かかるしリスクも大きい。できることから小さく始めて、ニーズを把握しながら徐々に大きくしていけると良い。

## 今後の主な検討課題

- 活動内容①…ニーズ把握の方法（どのような方法でニーズ把握ができると良いか）
- 活動内容③…実施場所（実現可能な実施場所を探す必要あり）

## 4-3：各所の緑化運動を展開したウォーキングルートづくり

**プロジェクトの目的と主なターゲット**

- ・地域住民…より良いみどりの景観を生み出すことで、交流と憩いを提供する。  
…みどりに関する地域資源の情報を共有する。
- …避難ルートの確認や地域交流に繋げることで、防災力の向上を図る。

**中心となる担い手**

- ・地区別懇談会メンバーから参加者を募る

**プロジェクトを支える人たち**

- ・ルートの近隣の方（花の手入れの協力）

**プロジェクトの内容**

現状は各地で点々で行われている緑化活動について、点から線、線から面へと波及させることで、将来的にはどこを歩いてもみどりを感じられるような地区にする。

**●活動内容①【モデルルートの選定】**

- ・まずはモデルルートを選定し、ルート上で緑化活動を展開する箇所を決める。
- ・まち歩きや、円卓会議を活用した情報収集、地域資源の発掘を行い、ルートを検討する。

**●活動内容②【フラワーポットの設置と沿道住民による手入れ】**

- ・ターゲットとなる箇所にフラワーポットを設置し、近隣の方に手入れを依頼する。
- ・フラワーポッドに地区のオリジナルキャラを描くことで、別プロジェクトと連携できる。

**●活動内容③【既存の植栽の管理】**

- ・既存の組織（緑化推進団体等）が行っている小道の植栽の手入れや管理について、近隣住民の協力など、持続的な方法を検討する。

**●活動内容④【地域住民が個人で緑化活動を進めるための意識啓発】**

- ・各戸の道路側の緑化を推進するための意識啓発を行う。
- 地域に開かれた農園として、道沿いに芝生を敷き、ベンチを設置している事例がある。訪れた人に緑化への関心を持ってもらうことと仕組みを合わせることで、地域に波及させていく。

**●活動内容⑤【みどりのウォーキング運動の開催】**

- ・地区の美化を呼びかけながら、ウォーキング運動を行うことで、住民同士の交流を生み出し、みどりに関する地域資源の情報を共有する。

**●活動内容⑥【みどりのウォーキングマップづくり・PR活動への展開】**

- ・みどりを感ぜられるウォーキングコースのマップを作成する。
- ・神社や商店等の資源の情報や防災情報をマップに加えることで分野連携やPR活動への展開を図る。

**今後の主な検討課題**

- ・活動内容②…フラワーポットの調達手段、資金準備
- ・活動内容③・④…具体的な実施方法
- ・活動内容⑤・⑥…具体的な企画検討、マップ作成に係る費用、マップの活用方法

## 5-2：農がある風景を生み出すための農業機会の創出

### プロジェクトの目的と主なターゲット

- **地域住民**…地産地消の価値観を根付かせて、地域経済への貢献に繋げる。
  - …農業の担い手を発掘し、地域の農業を維持・発展させる。
  - …農業を通じた気持ちの良い人間関係や、過ごしやすい空間を育む。
  - …災害時の避難や治水の機能を果たす農地を維持することで、防災力を向上させる。
- **子ども** …「身近な自然」を増やし、自然との関わりを通じた豊かな体験の機会を創出する。
- **農家** …高齢化や担い手不足などの課題を解決するための一助とする。

### 中心となる担い手

- 農家、農地の所有者

### プロジェクトを支える人たち

- 都市農業振興課

### プロジェクトの内容

農業に対する地域の需要や関心を高めることで、「体験農園」や「貸し農園」の可能性を広げる。地域住民や、特に子どもたちが農業を体験することで、農業に対する価値観を育み、農地の維持や地産地消へと結びつける。

#### ●活動内容①【農業の魅力PR】

- 魅力のPRを通して「貸し農園」や「体験農園」の需要を高め、既存の農家が「自身の農地を貸す」という選択肢を生み出す。
- 担い手不足による農家の廃業や宅地化を防ぐ。

#### ●活動内容②【地域の子どもたちを対象にした農業体験会の開催】

- 地域の農業に対する価値観を育むために、既存の体験農園を活用し、子どもたちを対象にした農業体験会を開催する。

#### ●活動内容③【新たな体験農園・貸し農園の開園に向けた協力者・候補地探し】

- 農家が抱える担い手不足などの課題を把握し、将来的に維持が難しそうな農地を見つける。
- 農家に体験農園や貸し農園を運営するためのノウハウを伝えることで、手つかずになっている農地や維持が難しい農地の活用を働きかける。

### 今後の主な検討課題

- 活動内容①…具体的なPR方法、PR対象
- 活動内容②…子どもたちの農業体験からの活動展開イメージ
- 活動内容③…農家の課題の把握方法やストック、ノウハウの伝達方法

## 6-1：地域のPRに向けたご当地キャラクターづくり

### プロジェクトの目的と主なターゲット

- ・地域住民…ご当地キャラクターを媒介にして多世代交流を図る。  
…住民で考案したキャラクターが地域の特色や魅力を発信することで、地域の愛着を育み、賑わいづくりにつなげる。

### 中心となる担い手

- ・地域住民

### プロジェクトを支える人たち

- ・学校関係者、PTA

### プロジェクトの内容

地域での公募により、様々なイベントや他プロジェクトのPR機会などで活躍する『ご当地キャラクター』を作成する。

#### ●活動内容①【キャラクターのデザインコンセプト検討】

- ・公募を行うにあたり、キャラクターのデザインコンセプトを検討する。
- ・地域の特色や住民のイメージ（農業→緑色、若い人や子育て世代→働き者など）を反映したコンセプトにすることで、愛着を持てるキャラクターにする。
- ・作成するキャラクターは、公募の対象を【大人部門】、【子ども部門】などに分けて複数作成し、家族を構成するようなイメージもアイデアのひとつである。

#### ●活動内容②【公募の対象と公募方法の検討】

- ・公募の対象を年代別に分けて実施する。
- ・発案されたキャラクターを地域に掲示することや、住民の投票による選定など、地域が一体となって参加できる仕組みを検討する。

#### ●活動内容③【ご当地キャラクターの活用検討】

- ・作成したご当地キャラクターについて、他プロジェクトとの連携など、作成後の活用方法について検討する。

### 今後の主な検討課題

- ・活動内容①…地域の特色などの情報収集、具体的なデザインコンセプトの検討
- ・活動内容②…具体的な公募対象や公募方法
- ・活動内容③…具体的な活用方法

## 7-3：安全なまちを目指した地域の見守り運動

### プロジェクトの目的と主なターゲット

- ・住民や駅の利用者…安心・安全のために見守り運動を推進する。

### 中心となる担い手

- ・第4回目にて検討予定

### プロジェクトを支える人たち

- ・ガーディアンエンジェルス
- ・夜のお店の人に見守りに協力してもらう
- ピブスをキャッチの人にも着てもらい、見守りも兼ねる

### プロジェクトの内容

#### ●活動内容①【〇〇のついでに見守りを行える体制づくり】

- ・夜のお店のひとに見守りをしてもらう協力体制を作る。ピブスをキャッチの人にも着てもらうことで、悪い印象のある夜のお店のキャッチも地域の見守りになるのでは？
- ・買いものついでの見守りを行う。ピブスなどは自分を守る（自助）うえで有効（引ったくり、事故（ピブスして買い物）など）である。

#### ●活動内容②【対象エリアごとの実施方法・対策の検討】

- ・エリアによって、実施方法が異なるため、それぞれの対策をすることが必要である。

#### ●活動内容③【まちのみんなで防犯をしているという雰囲気づくり】

#### ●活動内容④【「ボランティアの仕組みづくり」と連動したニーズ把握・マッチング】

### 今後の主な検討課題

- ・活動内容②…エリアごとの対策の整理

## 7-4：公園や空地を活用した『子ども』×『防災』イベント

### プロジェクトの目的と主なターゲット

- ・地域に住んでいる親子…防災をきっかけとして、地域について関心を持ち、交流できる様な機会につなげる。

### 中心となる担い手

- ・町会、自治会
- ・自主防災会

### プロジェクトを支える人たち

- ・避難所運営委員会

### プロジェクトの内容

#### ●活動内容①【将来像やハザードの設定】

- ・この取り組みを通して、将来的にどのような地域になってほしいかを共有する。
- ・災害の種類を決める（風水害はある程度予見可能のため、地震に設定するなど）。

#### ●活動内容②【内容の企画】

- ・子どもは非日常（例：学校に泊まれる）が好きなので、そのような視点も取り入れる（不意うちで電気が消えるなど、お化け屋敷的な要素も取り入れる）。
- ・災害時に、地域の避難所の運営は自分たちの手で行えるようになることを目指し、訓練の流れを覚えて事前には参加者に教えない「ブラインド型訓練」にする。

#### ●活動内容③【場所の検討】

- ・災害時の避難所となる場所（小学校）を使い、「1日避難所」体験というコンセプトでの実現を目指し、関係者と調整する。

#### ●活動内容④【試行と持続的な展開】

- ・イベント後の展開につなげていくため、シリーズ化していく（来年度は別のテーマや切り口で実施するなど）。
- ・「防犯」など、より身近な地域の生活課題に気づくような機会にもつなげる。

### 今後の主な検討課題

- ・活動内容②…内容の企画（地域の親子に関心を持ってもらい、実際の参加につなげる工夫）
- ・活動内容④…場所の検討（小学校を使用できるか、宿泊が可能かなど）

# 第4回目地区別懇談会での検討内容

各班ワーク：プロジェクトの内容を確認しよう・具体化しよう！

・第3回の結果を踏まえて整理したプロジェクトシートをもとに、更に具体化が必要な部分と追加で検討が必要な部分の意見出しを行い、プロジェクトをとりまとめます。

※今回参加される皆様と以下のようなことを検討いたします。

今後、コミュニティプランとしてまとめ、各プロジェクトを実行に移していくためにはまだまだ議論の余地がございます。前回ご参加されなかった方も、是非活発に意見をお出しください！

## ＜検討の視点＞

### ①実現可能性を高める

- ・ステップごとに必要な協力や準備、誰に又はどの団体に協力を依頼できそうか
- ・実施場所、会場としてどこが考えられるか

### ②持続可能性を高める

- ・活動を進めるにはどのような方法が考えられるか  
(例 施設利用・準備物購入・活動資金、お金をかけずに進めるアイデア)
- ・市や民間事業者等と連携できることがあるか  
(例 民間企業・行政・活動団体に場所・モノの提供の協力を仰ぐ)

・当日ワークでは、さらなる具体化に向けて各プロジェクトシートに意見を出し合います！

(検討例)

### 6-2 地区の団体同士が情報交換できる場づくり

**プロジェクトの目的：**

- 同じ地域内でも、団体同士のことをあまり知らないことが多い。地域としてみんなで情報交換することで、それは町会長へ相談すれば良いのでは？や一緒に活動してみようか、といったつながりが生まれる。そういった場があると良い。
- 抱えている課題を共有して課題解決に繋げることで、地域のまちづくり団体が活動を継続していけるようになる。
- 市の広報物も読む人が限られており市民になかなか届かない。詳しい方が再度情報発信をして草加市を好きになってもらえる良い。
- 団体同士がコラボした取り組みも生まれるかもしれない。

**主な対象者：** どのような人をターゲットにする？

- ・町会の企業会員
- ・子ども会、すこやかクラブ、 など地区内の団体

**中心メンバー：**  
まずは既存町会の役員が発起人となり、そこから各テーマのトップにメンバーになる

**協力者：**

- ・社協のサロン
- ・ごみ対策協議会

必要となる役割の検討・分担

**実施場所：**

場所はどこ？ 誰が予約する？

### ③取り組み内容

- 町会組織を利用したサロン「(仮称)地域活性化サロン」**
  - ・各団体の代表者が集まって、町民の代理人となって、情報共有・意見交換する場
  - ・今までの町会のあり方を変えて、自分の町会を仕切るだけでなく、エリアを超えた全体を考えた活動ができると良い。新たな組織を作るのではなく、町会活動の一環とすることで新たな組織を作らなくても良い。ただし町会長が責任者を担うと手一杯のため、場を提供するからフリーにやって、というスタンス。
  - ・一人一人の意見を聞くのは難しいが、代表者が集まることで町民のためにもなる。住民の代表者の集まりによって住民の声を届ける。町会のメリデメの話もここで。
- まずは小さな集まりから始める**
  - ・サロンの様に自由に入退出りができることが大事。活動上の困りごとがあればお茶でも飲みながら話ませんか、という。堅苦しい雰囲気ではなく、社会福祉協議会が実施しているフリーお茶会のようなイメージ
  - ・まずは、小さいところから

どのような課題がでてくる？
- テーマに分かれて情報交換・課題解決**
  - ・町会組織を利用した新たなサロン。入り口は町会だが、入ったら好きなテーブル(活動)に分かれて良い。自分がいった意見を実現できる。そうすると町会費を払うメリットにもなる。
  - ・川柳地区社協が活動毎に分かれているように、川柳ブロックでテーマ分け(チーム分け)をする。
- 団体同士のコラボレーション**
  - ・こういった場を作ることで、ゆくゆくは団体同士がコラボしたイベントが生まれる。例えば子ども会とすこやかクラブと一緒になど。

各ステップで必要となる取組みはなんだろう？